

夜回り先生からのメッセージ

昨年は、大麻による大学生、高校生たちの逮捕、覚せい剤やMDMAによる芸能人の逮捕と、薬物事件が数多く報道されました。しかし、これは、氷山の一角です。

今、日本の明日をにやう若者たちの間に、薬物汚染が広がっています。私の元にも、数多くの相談が続いています。それにもかかわらず、多くの親や、教員、行政関係者は、この問題を深刻な問題としてとらえていません。

薬物は、乱用する若者のからだどころをむしばみ、犯罪や自らの死に追い込んでいく、恐ろしい悪魔です。私も、この18年の戦いで、すでに41名の尊い命を失いました。一日も早く、私たちの愛する国、日本から、すべての薬物を葬ることが、今、求められています。

私の、18年に及ぶ、薬物との戦いの中で、公明党世田谷青年部の若者たちと知り合うことができ、そして、ともに薬物と戦い始めることができたことは、とても幸せでした。戦い抜きましよう。この国から全ての薬物がなくなる日まで。

水谷修



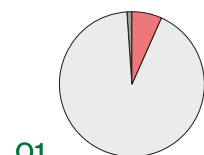
衝撃のアンケート結果 (世田谷ボランティアグループS-UNITED提供)



国立保健医療科学院 生涯保健部行動科学室長

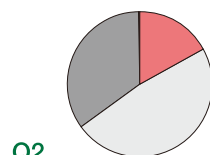
医学博士 藤原武男氏

この調査は実施主体が青年団体ということで、回答者が本当のことを答えやすかったと思われ、より実態に近いデータと考えられます。2007年国立精神神経センターの調査によれば、住民調査で2.9%、大学生の調査でも2.6%の人が「薬物使用経験がある」と答えています。しかし、本調査はその2倍以上6.9%の人が「使用経験あり」と回答しており、約2割の青年にとって薬物が身近な存在であることが明らかにされています。行政はこの実態を重くみて、早急に包括的な薬物対策を講じるべきであると考えます。



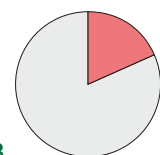
Q1
大麻など薬物は使ったことはありますか？

はい	6.9%
いいえ	92.2%
無回答	0.9%



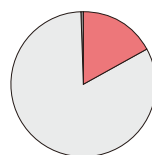
Q2
大麻(マリファナ)はたばこより害が少ないと思いますか？

思う	17.1%
思わない	48.0%
わからない	34.8%
無回答	0.1%



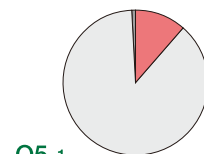
Q3
大麻など薬物を使おうと誘われたことがありますか？

はい	18.6%
いいえ	81.4%



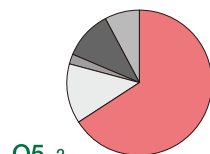
Q4
身の回りで薬物を使用している人はいますか？

はい	17.1%
いいえ	82.6%
無回答	0.3%



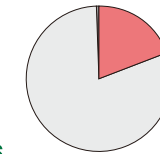
Q5-1
大麻など薬物を使って見たいと思ったことはありますか？

はい	11.4%
いいえ	88.0%
無回答	0.6%



Q5-2
「ある」と答えた方、その理由はなんですか？

好奇心	66.1%
ストレス解消	13.3%
ダイエット	2.2%
勧められたから	10.7%
その他	7.7%



Q6
大麻など薬物をどこで入手できるか知っていますか？

知っている	19.4%
知らない	80.2%
無回答	0.4%

アンケート実施期間
2009年2月～3月

アンケート数
2,591人

10代～30代の回答者数
2,116人

総支部青年部が推進！ 世田谷の薬物対策

会場が泣いた……。夜回り先生こと

水谷先生 特別講演。

世田谷は、六本木、八王子に次ぐ

薬物密売地。

S-UNITEDが、緊急アンケートを実施。

薬物使用
経験あり

15人中1人

世田谷区内10代～30代

公明党世田谷総支部青年部が、

NPO法人

東京ダルクを招いての シンポジウム開催。

若者のチカラで薬物汚染対策を実現！

都内公立全校で 薬物防止教室実施へ！

若者と共に、薬物問題に積極的に取り組んできた都議会公明党は昨年9月15日、都議会本会議において、薬物汚染の低年齢化が問題となる教育現場での対策について栗林のり子都議が質問。大原教育長は「今後100%すべての公立学校において薬物乱用防止教室や薬物乱用を取り上げたセーフティ教室を必ず年1回実施するように指導する」と答弁。全校での実施を指導するほか、指導内容も映像教材などを活用し、充実させていくと述べた。



薬物乱用防止キャラバンカー

「薬物問題」解決に向けた都議会公明党の取り組み

都議会公明党では、2002年2月以来、都議会において、また国会議員と連携して薬物汚染防止対策を推進して参りました。特に脱法ドラッグが覚せい剤などの「ゲートウェイドラッグ」になる問題では、都で「脱法ドラッグ対策強化月間」の創設や全国で初となる「脱法ドラッグ規制条例」の施行を実現したのです。今後も、若者から薬物汚染から守る方策について、皆様のご意見を拝聴しつつ着実かつ有効な対策を進めてまいります。

都議会公明党幹事長 中島よしお

提案します！

- ・ 夜間受付相談窓口を創設
- ・ 相談窓口業務を民間団体・NPOへ委託
- ・ ボランティアを活かせる体制づくり
- ・ 薬物撲滅、薬物使用反対マークを普及

若者のチカラでみんなの声を結集！

世田谷ボランティアグループ S-UNITED主催

薬物防止緊急集会 2009.3.29

3月29日開催の薬物防止イベント「SETAGAYA YOUTH FORUM」は、世田谷ボランティアグループ・S-UNITEDが行った、薬物汚染実態アンケートの結果をもとに、夜回り先生こと水谷修氏をゲストに、栗林のり子都議も参加したパネルディスカッションが行われました。水谷先生からは「世田谷が薬物密売地として六本木・八王子に次いで多いという」衝撃的な事実も公表され、若者への薬物汚染防止のためには、地域ぐるみで対策に取り組む重要性が話し合われました。



反響の声が続々！イベント・講演会での来場者の声

・私自身、教育に携わっています。水谷先生のお話を伺い、今日から子どもたちへの接し方を改めていこうと思いました。<30代・女性>

・ドラッグについて考えさせられただけでなく、自分の生き方についても見つめなおす機会となった。<20代・男性>

公明党世田谷総支部青年部主催

薬物問題を考える 2009.10.18

10月18日には、公明党世田谷総支部青年部の主催で薬物依存症者の自立支援を行うNPO法人・東京「ダルク」・幸田実氏を招き自立を目指す依存症者の現状と行政を含めた支援への課題に関する講演会を開催しました。当日行われたトークライブには、栗林のり子都議、医学博士の藤原武男氏も加わって、薬物依存症者を支援する地域ぐるみの「支え」について、行政や医学の分野だけでなく、幅広い視点から活発な議論が展開されました。中島よしお都議会幹事長は、薬物問題解決への尽力を約束し、参加者に対してさらなる協力を呼びかけた。

